

建 築 家

通 信

2014.6.30
vol.102

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
J I A JIA長野県クラブ

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

第23回保存問題長野大会「保存は未来への創造である」——— 藤森 照信



片倉館見学風景



初代片倉兼太郎生家見学風景



丸山タンクにて



旧山一林組製糸事務所見学風景

歴史的な建物と歴史的な町並みの保存は、このところ建築界だけでなく社会においても行政においても注目されるようになったのは嬉しい。

近代化にともなう取り壊しの大波がすべての歴史的なものを押し流すと、私などは悲観していたが、“若干は残してくれた”、そんな印象を今は持っている。昔を知る者には本当に“若干”で、もっと早くからもっと我々がガンバレばもう少し残ったかもしれないと、内心忸怩たるものがある。

東京駅の赤煉瓦駅舎の保存改修工事が終わり、往年の輝きが戻り、ものすごい数の人々が見上げては写真を撮るのを目にした時、長年、保存に関わったものとしては嬉しいと同時に複雑な気持ちを禁じ得なかった。

なぜなら、東京駅一棟を残して、周囲にかつて立っていた何棟もの歴史的建物は全て消えていたからだ。

戦災で焼失した最上階と屋根を復原し、両翼をグイと伸ばして腰を割る姿は、辰野金吾の皇居に向かっての横綱土俵入りにちががなく、保存運動をしながらもまさか生きているうちにそんな雄姿を見ることができようとは思ってもいなかっただけに、嬉しくかつ複雑だった。

近年もう一つ嬉しく複雑な気持ちになったのは富岡製糸場の世界遺

産登録が決まったことだった。東京駅の保存問題よりずっと前から保存の動きがあり、当初は地元もさほど熱心ではなかったが、やがて県も市も地元民も地元ジャーナリズムも盛り上がり、世界遺産にまでこぎつけることができた。

東京駅も富岡製糸場も、私の先生の故村松貞次郎とそのまた先生の故関野克の二人が先駆的に研究と保存に意を注いできた歴史を知っているから、とても嬉しかったのだが、富岡について複雑になったのは、富岡から始まった近代製糸が花開いたのは岡谷を中心とする諏訪地方であり、その中核企業であった片倉製糸こそが民間払下げ後の富岡製糸場を保有し、諏訪地方にこそ世界屈指の近代製糸関係の工場や倉庫や社屋や保養施設などなどが少し前まで残っていたからだ。富岡は世界遺産になったのに肝心の諏訪は…と思うと複雑にならざるを得ない。

でも、わが故郷諏訪でも、少しずつ歴史遺産を大切に思う人々が増え始めているのは嬉しい。

時代は確かに変わる、あまりにゆっくりと。



第23回 保存問題長野大会in諏訪・岡谷

感謝と共に、未来への創造に一步前進

保存問題長野大会特別委員会委員長 丸山 幸弘



5月24日(土曜日)・25日(日曜日)に無事、開催できました。と言うのが率直な気持ちです。2月の大雪の気候とは全く違う、すがすがしい天候に恵まれました。2月14日、予定していた大会前日に吉川支部保存問題委員、片倉副代表のお二人が見学場所の歩道をせっせと雪かきをして下さった努力を忘れさせるような良い天候でした。2年前からの準備で十分な時間が有る予定でしたが、実際になってのドンデン返し。良い思い出と割り切ろうと思いましたが、5月開催と目標を立て、支部への交渉、関係者各位の調整をし、日時だけはどうか決めることができました。支部執行部での交渉には赤羽副支部長に大変、お世話になりありがとうございました。私の心情としては、日程は決まっ

たものの心理的には一度どん底に落ちた物を持ち上げるには非常に困難を擁しました。それ以上に川上前代表の落胆は察するに心痛く感じました。しかし、今回の大会が開催できたこと大変嬉しく思うと同時に皆様の協力に感謝申し上げる次第です。ありがとうございました。本大会は大成功と自画自賛していますが、本当に大成功であるかは、今後の岡谷・諏訪市のまちづくりの進み方で結果が分かると思います。この大会を地元の方々(行政、市民、地元建築家)が一步として捉え、保存すべき建築物を保存することによって、未来への創造に繋げる事ができれば大成功となるでしょう。また、そうなるように期待しています。最後に、この大会を開催するにあたってサポートして頂いた地域会執行部、幹事、特別委員会の皆さん、事務局の佐藤さん、ありがとうございました。感謝申し上げます。

片倉館、諏訪の宝物を未来へつなごう

高木 保夫(長野県花田養護学校)



まちづくりの同志でもある片倉隆幸先輩からのお誘いで、一般参加させていただきました。片倉館(産業遺産)の保存には、以前より興味がありました。今回一番の収穫は、山崎茂館長さんからの解説でした。二代兼太郎に扮して、6点の重要文化財、421枚の建築図面、204畳の大広間、2600本の松くい、熊やパイナップル

のレリーフなど熱烈にして懇切なお話をいただきました。地元にながら知らないことばかり、びっくりの連続でした。みなさまにも、大浴場にあわせて、本館の見学をお勧めいたします。

諏訪の宝物である片倉館を、後世に引き継いでいきたいと思ひます。それには、行政と市民だけでなく専門家、とりわけ建築家のお力が肝要だなあと感じた保存大会でした。参加させていただき、ありがとうございました。

第23回保存問題長野大会に参加して

岡谷市建設水道部都市計画課 岩垂 和典



第23回保存問題長野大会開催おめでとうございます。2月の記録的な大雪による中止から改めての開催という経緯もふまえて、ご準備されてこられた関係者の皆様の大変なご苦労察し致します。また、今大会を通じてJIA会員をはじめとする大勢の皆様を岡谷市にお迎えしたことを光栄に思ひます。

私は、都合によりシンポジウムへの参加となりました。藤森照信先生の基調講演では、建築が「意識」「無意識」という私たちの心の構造と相互関係にあるという考えを伺いました。

パネルディスカッションでは、研究者・行政・住民・建築家が、それぞれの立場からご意見を交しましたが、近代建築保存の問題意識を共有し、方向性を見出していく難しさを改めて感じました。

現在、当課では、まちづくりのビジョンとなる都市計画マスタープランの改定に着手しており、また、芽生えつつある幾つかのまちづくり市民活動を支援しておりますが、私にとって長野大会への参加は、これからのまちづくりを考える上で大変参考になりました。

本大会を契機に、JIA 会員の皆様には専門家として引き続き当市のまちづくりにご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

大会風景





4月19日の通常総会で代表を拝命した山口です。今後2年間会員の皆様のご理解・ご協力を得ながら会の運営を行っていく所存ですので、ご支援の程を宜しくお願い申し上げます。

私は事務所を開設してから5年経った40代の初めに自分の仕事にマンネリ感を覚え、かなり敷居は高く感じたのですが、当時の会長が地元の出澤さんだったこともあり、刺激を求めて思い切って入会しました。参加すると“ありがとう”と大先輩から声をかけていただき感激しました。「本音で語ろう会」では、私より若い会員が積極的に発言しているのを見て感心しきりでした。初めての参加で心のハードルはかなり下がり、活動が楽しいと感じられました。

代表としての心構えとして、初心にかえって私自身が長野県クラブに入会した時に感じた、この会の持つ親しみやすさや活動の楽しさを大切にすることから始めたいと思います。年齢や会員歴に関係なく気さくに声をかけ、建築を

語れる関係を築くこと。参加したいと思うような、参加したら楽しいと感じられるような活動を仲間と作って行くことです。ここから県クラブの活動の目標に向かって自分ができることを一歩一歩積み重ねて行きたいと考えています。

具体的な活動内容はスペースの関係で別に譲りますが、これからの2年間の最大のテーマは「地域への貢献」です。川上前代表が押し進めた“県産材の建築を年間200棟”の運動を中心に、我々の職能である、建築の設計を通じて良好なまちなみの形成と地域社会に貢献するという目的意識を持って活動して行きましょう。その為には今まで以上に資質・技術の向上と業務環境の進歩改善に努めなければなりません。そうした活動を通じて社会に向かって積極的に良質な情報を発信することで建築家の職能が社会に認知されることに繋がって行くと考えます。他人事ではなく自分の問題だと捉えて行動することが重要です。

会員の皆さんの積極的な参加をお願いします。

今年度の抱負と展望・活動予定

総務委員会 JIA長野県クラブの根元

藤松 幹雄



今年度より総務委員長を仰せつかりました藤松です。林委員長より引継ぎJIA長野県クラブ総務全体を担当することになりました。公益社団法人体制になり2年目のスタートとなりますが、山口代表は基よりクラブ全体の活動がスムーズに運営できるよう努めて参りたいと思います。通常総会で五つの委員会活動方針が

山口代表からしめされました。公益性の高い活動が多く会員の資質向上を目的としたプログラムもひいては社会貢献の基を支える活動になると思います。地域の建築家として「公益」性の高い活動を支えて行きたいと思っておりますので御協力をよろしくお願いたします。

広報委員会 広報変革期

丸山 和男



今年度より広報委員長を担当します丸山です。宜しくお願い致します。

公益法人化に伴い、広報、出版のあり方が大きく変わり、それに伴い、広報の重要性が益々大きくなってきたと感じています。建築家通信、ホームページも、今までの会員向けの情報発信から、広く一般の方への情報発信へ変わらなくてはなりません。昨年創刊した「あるしてくと」も、作品発表の場としてではなく、こ

れまで以上に特集ページの充実を図り、JIAの基本理念、建築を取り巻く様々な情報の発信に努めていきたいと思っております。

「あるしてくと」Vol2の発刊も12月に決まりました。より多くの会員の方の参加をお願い致します。

各委員会との連携を図り、正会員、協力会員の皆様のご協力を得ながら活動していきたいと思っております。

交流委員会 会員委員会から交流委員会へ

山田 健一郎



昨年度までの会員委員会が、今年度より交流委員会と名前を変えて新たにスタートします。今までの会員、協力会員、相互の交流に加えて、公益社団法人の活動としてJIA長野県クラブ内に留まらず多くの建築、都市に関心のある方々との活発な交流を視野に入れていきます。改めて言うまでも無く、交流の鍵となるのは各

会員の建築・都市に関わる活動や仕事、協力会員の技術・ノウハウ等であり、建築家協会ならではの交流の場を考えていきたいと思っております。活発な交流の為、会員・協力会員の方々の様々な活動紹介や情報の提供のご協力をお願いいたします。

事業委員会 第9回建築祭に向けて

菊池 弘之



長年、松本市及び松本近郊のJIA会員の方々が、松本市美術館との良い関係を築き、過去6年間、美術館と共同企画し開催をしてきました。長野県クラブとしては文化講演会22回、卒業設計コンクール23回開催されておりますが、建築祭を松本市美術館で開催する事は、恒例のようになってきました。第9回の建築祭に向けて、美術館より、既に2つ要望があり、一つは、文化講演会の講師を8月までに決定し、開催までの期間を、PR活動とした

い。もう一つは、学生卒業設計の展示期間が短いので、1日前に展示設営をして頂きたい。(金曜午後・設営/土曜・講演会/日曜・コンクール)と前向きなお話を頂いております。第1回の実業委員会が開催し8月末までに講師の決定をすべく動いております。

設営に関しては各学校の予定・都合もお聞きし対処していきます。建築祭は公益社団法人長野県クラブの一つの柱なので、皆様のご協力をお願い致します。

まちづくり委員会 『新生・まちづくり委員会』の展望

下崎 明久



近山の木など地域材の積極的な利用の意義を広く浸透させること、またその利用促進を目的に2年間活動してきた「地域材活性化委員会」と、都市や農山村の景観や豊かな空間づくりに寄与しようとする「まちづくり委員会」を合体した、「新生(?)まちづくり委員会」の取りまとめ役をやってくれと言われて、いまだに若干の戸惑いを隠さずいます。

兎も角、一個の建築物は多数の「材」を組み合わせてできて

おり、その建築物の集積が「まち」でありましょう。そしてより良い建築づくり・まちづくりに関して、「地域に根ざして」取り組もうという者の集まりがJIA長野県クラブであると考えます。

「地域に根ざす」というテーマを改めて見つめ直す機会として「新生・まちづくり委員会」の活動をしていきたいと思っております。委員のみならず多くの皆さんの参加をお願いします。

新入会員の紹介

小林 秀行



塩尻市本山に生まれ、今年で58歳になります。本山は中仙道の宿場町で子供のころは築120年の家に住んでいました。その家の建て替えが機で建築の設計をめざそうと考えました。この仕事に携わり35年が過ぎました。その間依頼者への誠実性や社会に対する責任を持ちながら業務を行ってきたつもりです

が、このたび日本建築家協会に入会する機会を得、再度建築家としての職務及び順守すべき倫理を再確認し、建築家として依頼者と社会への貢献を目指していきたいと思っております。また日頃、会員の皆様の真摯な活動に敬意を表しますとともに、今後は一員として価値ある活動を共有していきたいと考えております。

協力会だより

協力会会長

(株)日建エンジニアリング 加賀 修



3月中旬に坂田前会長より、協力会の会長を引き受けてもらいたい旨の連絡を頂き、お断り申し上げましたが、全然聞き入れてもらえず、また、川上前代表、山口代表にもお越しいただき、逃げ場を失い、このような事になってしまいました。協力会員として今まであまり活動をしていませんでしたので、何もわからない状況ですが、皆様の

お力をお借りして、なんとか務めさせて頂く所存でございますので、宜しくお願ひ致します。

「正会員と協力会は車の両輪である」という話をよく聞きます。

協力会として、車の両輪となる活動とは何なのか、何ができるのかを模索しながら、取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様のお力添え宜しくお願ひ申し上げます。

〒390-0848 長野県松本市両島7-16 TEL:0263-26-5540 FAX:0263-26-5541

協力会副会長

(株)本久 岸本 貴志



この度、法人協力会副会長を拝命しました(株)本久の岸本です。

長野県クラブに賛助会員として14年関わってきました。賛助会は新たに法人協力会となりましたが、正会員の皆さんが建築

家という職能を通じて行う地域活動に対する協力を引き続き行って参りたいと考えています。会員相互の交流に止まらずCSR活動の一環と認められる活動とすべく発言もして参りたいと思っておりますので、何卒ご理解とご協力のほどを宜しくお願ひ致します。

〒381-0045 長野県長野市桐原1-3-5 TEL:026-241-1155 FAX:026-259-1175

協力会副会長

株式会社ランバーテック 丸山 淳治



お世話になっております。松本のランバーテックの丸山と申します。この度、協力会の副会長の任をご提案いただき、これまでも坂田会長様含め諸先輩方の努力によって活躍してきた会の重責を担えるか不安だらけでしたが、少しでも会や皆様のお役に立てればと、若輩者ではありますがお受けすることになりました。山口代表始め本会

員の皆様、加賀協力会会長・岸本副会長のニーズを理解しながら私の出来ることを精一杯取り組んでまいります。日頃から建築に関わる建築家の皆さんや、施工技術を代表する協力会会員の皆様方の真摯な取り組みに感銘しております。是非皆様方の意見交換が活発に行われ活気あふれる地域会になることを期待しております。今後ともご指導賜りますようお願い致します。

〒399-0033 長野県松本市笹賀7189-2 TEL:0263-86-3486 FAX:0263-86-3775

総 会 報 告



林 隆

4月19日に長野市にて、JIA長野県クラブの2014年度通常総会が開催されました。山口康憲新代表をはじめとする新役員を選任、赤羽吉人会員・坂田守夫会員の相談役就任についても承認されました。

総会の後の会員集会は「JIA長野県クラブの今までそしてこれから」と題し、歴代の会長さんによる深い議論が繰り広げられました。建築家としての姿勢について見つめ直すことができ、新体制のスタートにふさわしい有意義な1日となりました。

開催したイベント

- 4月19日(土)・・・2014年度通常総会
- 5月24日(土)・25日(日)・・・第23回保存問題長野大会
- 6月7日(土)・・・建築家 香山壽夫氏と語る会

今後の行事予定

- 7月25日(金)・・・第1回幹事会
夏のセミナー
「坂のまち・小諸まち並みウォッチング」
- 9月25日(木)～27日(土)・・・JIA建築家大会2014 岡山



編集人/吉田 満 発行人/山口康憲
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303
URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

編集後記 山口新体制となり、委員会のメンバーも新しくなりました。広報委員会は丸山和男委員長を頭として私が会報の担当となりました。宜しくお願ひします。
JIAが公益社団法人となり、会報も「内向きの会報」から「外向きの会報」へとしなければなりません。会報の内容も記事もより分かり易く一般の方も楽しんで愛読できるような会報としていきたいと考えています。

吉田 満

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。